

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）  
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究  
患者「肝炎医療コーディネーター」の役割と次世代医療者への受講推進

研究分担者 米澤敦子 東京肝臓友の会 事務局長

研究要旨

【背景】わが国の肝炎・肝がん対策の推進において活躍が期待されている肝炎医療コーディネーターは、全国すべての都道府県でこれまで約 25,000 人が養成されている。受講者の職種は看護師、医師、薬剤師などの医療者を中心に自治体職員や介護職員、医療機関の事務職員など多岐にわたるが、患者や患者会メンバーの受講を推進している都道府県もみられる。患者や患者会メンバーの肝炎医療コーディネーターとしての役割とは何か、さらに患者が肝炎医療コーディネーター養成研修の推進を行う意義について検討した。

【方法】1) 患者や患者会メンバーの肝炎医療コーディネーターとしての役割、2) 肝炎医療コーディネーターの認知向上のための活動や、これから医療者となる医療系学生等に養成研修会受講を推進することの重要性について現状と課題を検討した。

【結果】1) 慢性疾患のため長期療養を強いられている肝炎患者は、医療者が知り得ない不安や感染症患者として受ける差別、偏見等について、肝炎医療コーディネーター養成等で講師として発信を続け、理解を深めることに成功している。また、患者自身が肝炎医療コーディネーターとして患者に相対しピアサポートを行うことは、同病同士でその思いを共有することが可能となり、それは療養においても日常生活においても非常に重要である。

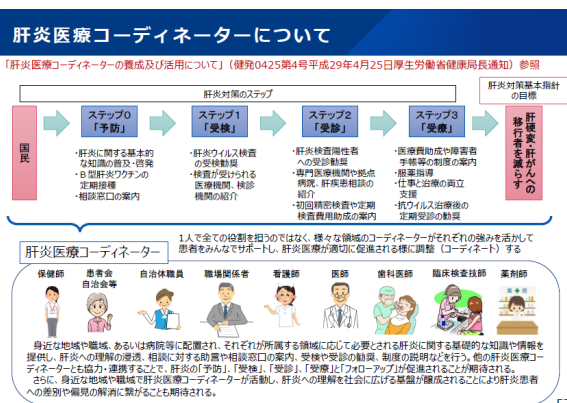
2) 患者会では、医療系の大学や専門学校の講義において肝炎患者としての経験や思いを伝え、肝炎医療コーディネーターの存在やその役割について説明、患者にとって肝炎医療コーディネーターがいかに重要な位置を占めているかを啓発し、さらに肝炎医療コーディネーター養成研修の受講が、医療者としてどれほど患者を深く理解することにつながるかを訴え、都道府県の養成研修会の受講を勧める取り組みをおこなっている。課題としては、これらの活動をより多くの地域に推し進め、また、全国の医学部、看護学部、その他の医療系、保健系、福祉系、介護系の大学や専門学校に加え、今後は高校等にまで広げていくことである。全国の医療者を目指す学生、一般の学校教育に浸透していくことで肝炎患者に対する理解がより深まり、結果として患者に対する偏見や差別の解消につながると考えられる。

【結語】肝炎患者や患者会の役割として、ピアサポートを含めた肝炎医療コーディネーターとしての活動を通じてわが国の肝炎・肝がん対策に関わる次世代の医療・福祉・介護従事者の育成に貢献したい。

## A. 研究目的

肝炎医療コーディネーターの養成は、平成20年3月に厚生労働省より通知された「肝炎患者等支援対策事業実施要綱」に基づき行われている。また、養成については、平成28年に改正された「肝炎対策の推進に関する基本的な指針（※）」第5（2）イ「肝炎医療コーディネーターの基本的な役割や活動内容等について、国が示す考え方を踏まえ、都道府県等においてこれらを明確にした上で育成を進めることが重要である」を受け、現在すべての都道府県において推進されている

また、平成29年4月に厚生労働省健康局長より通知された「肝炎医療コーディネーターの養成及び活動について」では、「1人で全ての役割を担うのではなく、様々な領域のコーディネーターがそれぞれの強みを活かして患者をみんなでサポートし、肝炎医療が適切に促進される様に調整（コーディネート）する」とあり、対象を「保健師 患者会、自治会等 自治体職員 職場関係者 看護師 医師 薬剤師」としている。これは令和4年3月に開催された「第29回肝炎対策推進協議会」の資料にも見られる



第29回 肝炎対策推進協議会 令和4年3月18日 資料2 「肝炎対策の国及び自治体の 取組状況について」より

患者会（患者）も肝炎医療コーディネーターとなり、患者の強みを活かし患者をサポートする、つまり「ピアサポート」を実践する

ことがここで提唱されている。

しかしながら、厚労省肝炎対策推進室の調査によると、令和2年度、養成研修会に患者の参加が許されている自治体は47都道府県のうち26であった。ここ数年増加傾向ではあるものの、患者が肝炎医療コーディネーターになることすらできない自治体は、いまだ半数近くに及ぶ。この現状において肝炎医療コーディネーターとしての患者の強み、役割とは何か、検証する。

さらに患者会や患者による肝炎医療コーディネーターの活動として、養成研修会の受講者に患者の立場や思いを理解してもらうことを目的として、講義を行うことが複数の自治体で行われているが、さらに将来の医療者に対し、授業の一環である講義の中で肝炎医療コーディネーター養成研修会の受講を勧め、肝炎医療コーディネーターとして活動することを推進する活動も併せて紹介する。

（※）令和3年度に改正された指針の第5（2）イにはさらに「地方公共団体は、国、拠点病院と連携して、肝炎医療コーディネーターの育成後もその活動状況の把握に努めるとともに、肝炎医療コーディネーター間の情報共有や連携がしやすい環境の整備に努めることが重要である」と追記、育成後の活動状況についても言及された。

## B. 研究方法

1) 患者や患者会メンバー3名（患者A：関東S県在住1名、在住県の肝炎地域コーディネーター、関東T在住2名、患者B：C県の肝炎医療コーディネーター、患者C：S県、N県、H県の肝炎医療コーディネーター、在住自治体は肝炎医療コーディネーターの養成を職域に限っているため患者が関係する他県にて取得）による座談会（令和3年12月4日実施）と4回のWebミーティング（令和3年12月10日、18日、令和4年1月28

日、2月21日実施)を行い、患者コーディネーターの強み、役割を検討した。

2) 患者Aは、県の拠点病院担当医師より大学医学部の学生に対し、肝炎患者として講義をおこなうことを依頼され登壇している。講義の内容は、肝炎患者の思い、肝炎医療コーディネーターの認知向上のために養成研修会受講を勧める、という2点である。将来の医療者に肝炎医療コーディネーター推進することの重要性について現状と課題を検討した。

### C. 研究結果

患者A、B、C、による座談会及びWebミーティングの結果、患者肝炎医療コーディネーターの強み、役割は以下であると考えられる。

1) 慢性疾患のため長期療養を強いられている肝炎患者は、自らの療養体験の中で医療者が知り得ない不安や、感染症だからこそ受ける差別、偏見について都道府県における肝炎医療コーディネーター養成やスキルアップ研修会で講師としてその思いを発信し理解を深めることに成功しており、これが強み、役割と考えられる。

また、肝炎医療コーディネーターの役割のひとつに患者サポートがあげられる。(前掲の「肝炎医療コーディネーターの養成及び活動について」参照)。患者肝炎医療コーディネーターが患者へのサポートを通じて、患者同士で思いを共有することは、ピアサ

## 私たち患者の回答

ずっと言わずにいたのは難しい  
一緒に病院に行ってもらって、主治医に説明してもらいましょう  
きっとわかってくれると思います

患者によるA県養成研修会時のスライド

ポーターならではの強みであり患者医療コーディネーターの大きな役割であると言える。患者肝炎医療コーディネーターとしてピアサポートを行うことは療養においても日常生活においても非常に重要である。

2) 患者Aの活動は、医療系の大学や専門学校の講義にまで広がり、肝炎患者としての経験や思いだけでなく、肝炎医療コーディネーターの存在やその役割について紹介、患者にとって肝炎医療コーディネーターがいかに重要な位置を占めているかを啓発している。さらに肝炎医療コーディネーター養成研修の受講が、医療者としてどれほど患者を深く理解することにつながるかを訴え、都道府県の養成研修会の受講を勧める取り組みをおこなっている。課題としては、これらの活動をより多くの地域に推し進め、また、全国の医学部、看護学部、その他の医療系、保健系、福祉系、介護系の大学や専門学校に加え、今後は高校等にまで広げていくことである。

## 5 肝炎患者の思い

### B型肝炎

結婚を考えている人がいる

B型肝炎ということは伝えていない

伝えなければと思っているが、言い出せない

子どものころ、母に話してはいけなかったと言われたので、誰にも言ったことがない

### 肝炎コーディネーターの活動

#### 臨床検査技師の活動 ①

術前検査での肝炎ウイルス陽性者のフォロー



患者Aによる臨床検査技師対象の講義スライド

#### D. 考察

患者会、患者が肝炎医療コーディネーターとなり、ピアサポートを実施することは、長期の慢性疾患を患う肝炎患者にとって、治療を前向きに進めることを可能とするだけでなく、何より感染症患者という思いの共有が可能となる。これまで患者会が発足と同時に患者同士で行ってきたことが、行政事業の中に組み込まれることが、非常に大きな意味があると考えられる。

また、全国の医療者を目指す学生に肝炎医療コーディネーターの存在意義を伝え、肝炎医療コーディネーター養成研修会を受講することを勧めることは、将来肝炎にかかわらない医療者に対しても、肝炎患者に対する理解が深まることに繋がると考えられる。他科の医療者の無理解により苦しむ患者にとっては、偏見や差別の解消に結びつく最も有効な方法であると思われる。

#### E. 結論

肝炎患者や患者会の役割として、ピアサポートを含めた肝炎医療コーディネーターとしての活動を通じて、わが国の肝炎・肝がん対策に関わる次世代の医療・福祉・介護従事者の育成に貢献したい。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

2022年6月に開催される日本肝臓学会総会メディカルスタッフセッションにて発表予定

#### G. 知的所有権の取得状況

なし

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

#### 3. その他

なし